

4-7	
主題	29%⇒0% 誤嚥性肺炎の追放。
副題	誤嚥性肺炎による体調不良を無くし、元気ある生活を送る

キーワード1 口腔ケア	キーワード2 歯科との連携	研究期間	7ヶ月
-------------	---------------	------	-----

法人名	社会福祉法人 ウエルガーデン		
事業所名	ウエルガーデン伊興園（特別養護老人ホーム）		
発表者：笠倉清恵 鈴木沙都子	アドバイザー：杉本浩司（すぎもところじ）		
共同研究者：大日方恵子			

電話	03-5838-1500	FAX	03-5838-1501
----	--------------	-----	--------------

今回発表の事業所やサービスの紹介	ウエルガーデン伊興園は足立区伊興に平成13年に開設した従来型特別養護老人ホームです。特別養護老人ホーム130名・短期入所生活介護26名、通所介護（認知症対応型含む）、訪問介護、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターが併設している施設です。
------------------	--

**《1. 研究前の状況と課題》**

全国的に要介護高齢者の死亡原因は全体の33%が肺炎である。当施設は26年度、31名中9名が誤嚥性肺炎（肺炎含む）の診断で死亡しており、29%というほぼ同様の結果であった。また、年間の入院日数1003日に対し、誤嚥性肺炎（肺炎含む）での入院日数は481日であり、48%という結果であった。

兵庫県立大学の介入研究の口腔内調査（1年間、計4回）で、欠損歯、義歯、歯周病など口腔疾患の他、口腔内清潔度・口腔機能と細かく調査した。細菌数・舌や歯の汚れ具合の結果は、共に汚れなしのご利用者は全体の1割程度であり口腔内の汚れが明らかになった。当施設では覚醒水準向上と口腔内乾燥防止のために水分摂取量の増加の取組、食事形態の見直しによる摂取栄養量の改善の取組を行っている。水分・栄養摂取量共に改善されてきているが、体調不良者は多く特に誤嚥性肺炎（肺炎を含む）の発症が多い。

原因のひとつとして日々の基本的なケアである口腔ケアが適切に行えていないことが考えられ、個々の口腔ケアの改善が課題となった。

**《2. 研究の目的ならびに仮説》**

**【研究の目的】**  
毎食後に実施する口腔ケアの方法・質を改善し、誤嚥性肺炎（肺炎）を予防する。体調不良が減ることで元気ある生活を送る。

**【仮説】**  
適切な口腔ケアを実施する事で誤嚥性肺炎（肺炎）が減る。26年度の当施設の死亡原因の29%が誤嚥性肺炎（肺炎）であり、これを29%から0%にできる。

体調不良なく過ごすことができれば本人の負担が減り、活動への意欲もわいてくると考える。そしてやりたい事、行きたい所への実現の取組に向かうことができる。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

【対象者】：入居者 130 名

（経口 120 名 経管 10 名）

（誤嚥性肺炎・肺炎既往の方 26 名）

【取組内容】 <清潔な口腔を保つために>

①研究前までは 1 人でブラッシングできる方は声掛けのみの対応、そうでない方は職員がブラッシングをしていた。今回の調査により、口腔内の清潔度に合わせたケアへの変更をした（1 人でブラッシングをしていた方も、磨き残しのある方には仕上げ磨きの実施）。

②誤嚥性肺炎（肺炎含む）既往のある方に対しては重点的に口腔ケアを徹底する。

a) 歯科医師・歯科衛生士の口腔ケア指導。

b) 口腔ケア委員会で毎月実施状況や問題点を検討。

c) 食事からのリスクを判定。（咀嚼・嚥下機能の確認の為、VE（嚥下内視鏡）検査実施）

### 《4. 取り組みの結果》

声掛けすれば 1 人でブラッシングしていた方は磨き残しを確認をしていなかったが、口腔内状況に合わせたケアへ変更し実施した。今まで 1 人でブラッシングしていた方にも一部介助を行う事により磨き残しが減少し、口腔内の改善が見られている。

そして今回、誤嚥性肺炎（肺炎含む）既往のある方についての口腔ケアの実施を特に強化した。歯科医師、歯科衛生士により口腔内の状態を確認し個々のケアの実施方法の指導を受けた。また嚥下・咀嚼状態の確認の為、VE 検査を行い食事形態の見直しを実施した。毎月、口腔ケア委員会にて実施状況を確認し合うことで実施率は改善している。

口腔内を清潔に保つ事で、老化に伴う身体の低下や嚥下機能の低下による唾液誤嚥が発生したとしても、口腔内を清潔に保つ事で誤嚥性肺炎（肺炎含む）を防止できており、入院日数の減少と誤嚥性肺炎（肺炎含む）が原因での死亡者ゼロを継続できている。

### 《5. 考察、まとめ》

本研究で ADL が高く 1 人でブラッシングができるご利用者の口腔内は清潔でない場合が多く、一部介助を必要とする方が多いことが分かった。自分で実施する事を尊重し、最後の仕上げとして、職員による仕上げの作業を行うようにしたことで研究前と比べ、口腔内が清潔に保たれるようになった。

また誤嚥性肺炎（肺炎）既往がある方への口腔ケアの強化を行い、唾液の汚れを抑える事で再発の防止となり体調管理ができる。

高齢者は悪性腫瘍や心疾患、誤嚥性肺炎（肺炎含む）による死因が多い。誤嚥性肺炎（肺炎含む）は口腔ケアによって防ぐ事ができる可能性が高い為、今後も誤嚥性肺炎（肺炎含む）が発症しないよう口腔ケアの徹底の継続を行う。

### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では個人情報を使用しないこと、それにより不利益を被る事はないことを説明し回答をもって同意を得たこととした。

### 《7. 参考文献》

・嚥下障害の事がわかる本 食べる力を取り戻す 著：藤原一郎

・介護するひとのための誤嚥性肺炎 こうすれば防げる・助かる 著：稲川利光

### 《8. 提案と発信》

高齢者が入院すると、入院日数が長期になる事が多い。入院となれば慣れている環境とは異なり、心身共に負担となる。

口腔ケアを行い、誤嚥性肺炎（肺炎）の発症を防ぐ事ができれば入院する事が減り、ご利用者にストレスがかからずに済む。また入院日数を減らす事で施設の運営に大きく影響する。